

環境マネジメント担当役員 メッセージ

執行役員
グローバル環境統括責任者
藤井 琢人



持続可能な社会を実現するために

当社は自動車産業のサプライチェーンの一翼を担う企業として、企業活動を通じて発生する負の環境インパクトに対し適切な対応を行うことが極めて重要であると認識しています。日本政府が発表した2050年カーボンニュートラル宣言の主旨に賛同し、当社は温室効果ガス削減目標の開示や施策の実施を積極的に行ってきました。特に気候変動を経営リスク・機会として捉え

2050年度までの「環境ロードマップ」を策定しました。また、TCFD提言の賛同に向けて社内準備を着実に進めており、気候変動による影響の情報開示を強化してまいります。そして、持続可能な社会を構築するため、温室効果ガス排出削減に貢献し、社会的責任を果たしていきたいと考えています。

製品の環境貢献度とサプライチェーンエンゲージメントの向上

自動車のライフサイクルアセスメントにおける温室効果ガスの大半は走行時に排出されるものです。製品を軽量・高剛性にするという今までの当社の開発姿勢は、脱炭素化への貢献という観点から評価されると考えます。今後は、技術力や価格競争力だけでなく、製品の環境貢献度でも自動車OEMから評価され、開発から製造までの環境負荷を考慮した製品を自動

車OEMに提供できるよう努力する義務があると考えています。特に欧州自動車OEMとの取引では、外部認証の取得や高いESG評価の獲得がサプライヤー選考の中で重要な割合を占めて来ています。当社単独では解決できない課題も多く、取引先とも情報を共有し、施策立案の協業を強化してサプライチェーンエンゲージメントの向上に努めてまいります。

カーボンニュートラル達成に向けて

温室効果ガス排出削減における重要なポイントは、自分たちの目の前にある省エネの取り組みこそが基礎であると考え、当社グループの従業員が自分事として取り組み、実施する体制を構築することと考えています。そして、これまで全社で取り組んできた省エネ推進に加えて、太陽光発電設備等の導入によるエネルギーの創出や再生可能エネルギーの活用を温室効

果ガス削減の3つの柱としています。大きな環境投資となる太陽光発電の導入や再エネへの切り替えは、地域や国ごとに電力構成の特徴や移行タイミングを見極め、取り組まなくてはなりません。各施策を見極め強力に実行し、グローバルでカーボンニュートラル達成へ向かっていきたいと考えています。

グローバルでのカーボンニュートラル達成に向けグループ内外と協業して
着実に取り組みを進めてまいります。

「環境ロードマップ」を策定

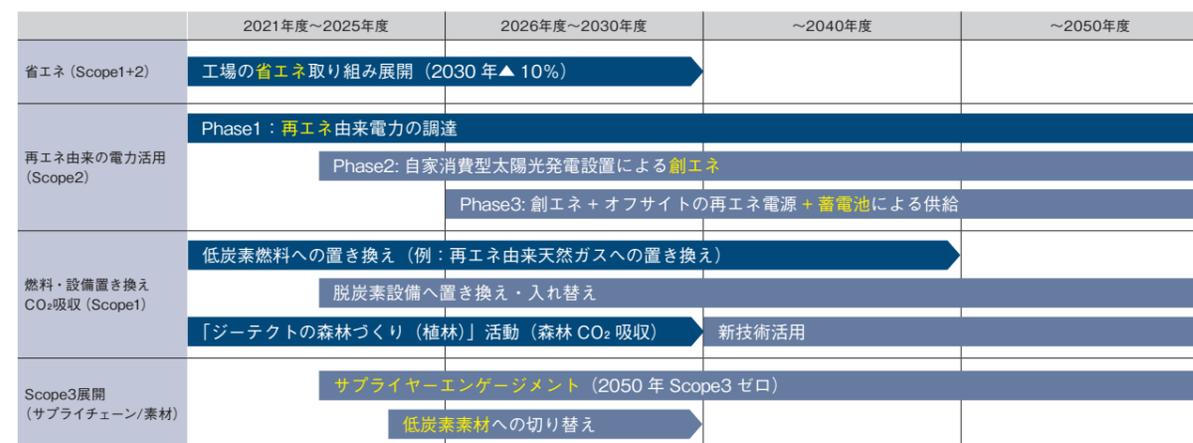
当社は、気候変動問題への対応強化のため、2021年度から2050年度までの気候変動問題対応行動指針・中長期計画である「環境ロードマップ」を策定しました。

WB1.5°C (Well Below 1.5 Degrees) 水準をターゲットに、SBT (Science Based Target) に準拠した温室効果ガス削減目標を経営戦略として取り入れています。

CO₂排出量削減目標

(Scope1+Scope2)
2030年度 **50%削減** ※2013年度比
2040年度 **100%削減** ※2013年度比
(Scope1+Scope2+Scope3)
2050年度排出量 **実質ゼロ**

環境ロードマップ



TCFD提言に沿った情報開示への取り組み

当社では現在、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言に沿った情報開示・発信を行う準備をしています。

<h4>ガバナンス</h4> <ul style="list-style-type: none"> 代表取締役社長がグローバル環境管理を監視しているグローバルCSR会議の議長を務める グローバルCSR会議の内容を毎年経営会議及び取締役会に報告 グローバル環境統括責任者である執行役員より環境関連リスクおよび機会を考慮した事業戦略、およびCO₂排出量実績や原単位の予実報告の経営会議の上程 	<h4>戦略</h4> <ul style="list-style-type: none"> 長期: 2050年目標を公開 中期: 2030年目標、2040年目標を公開 中長期のCO₂排出量の削減目標を設定 移行リスク3項目、機会3項目について2020年のCDPへ報告
<h4>リスク管理</h4> <ul style="list-style-type: none"> 気候関連リスクの特定や評価をGXプロジェクトで実施し、グローバル環境統括責任者の承認を得て公開 (CDP) リスクと機会を発生時間軸短期・中期・長期)、発生可能性、影響度の軸により評価 	<h4>目標と指標</h4> <p>中期・長期目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 2030年、2040年、2050年の排出削減目標を開示 <p>モニタリング指標</p> <ul style="list-style-type: none"> Scope1、2、3のCO₂排出量とエネルギー量